

2010年2月24日

京都府知事

山田啓二様

## 要望書

貴職におかれましては、京都府政の発展に日々ご尽力いただき誠にありがとうございます。

さて、1995年ナトリウム漏れ火災事故を起こして以来停止していた高速増殖炉「もんじゅ」が、この3月にも運転を再開しようとしています。

15年間停止していた開発途上の原子炉を動かした例は世界になく、長期間の停止による配管の腐食や機器の劣化は避けようがありません。特に蒸気発生器細管などはひび割れしていてもチェックできないのが実情です。また「もんじゅ」にとって極めて重要なナトリウム漏れ検出器の度重なる誤作動問題などにみられる日本原子力研究開発機構のずさんな管理体制が浮き彫りになり、運転再開への不安の声は一層高まっています。

さらに近年、もんじゅの直下に2本の活断層が潜り込んでいることが明らかにされました。国はこれまで「活断層の上には原発は作らない」「もんじゅの直下には活断層はない」から安全だと説明してきましたが、この説明とは食い違う実態をどう受け止めたらいいのでしょうか。2008年12月の京都府議会において採択された「もんじゅ」の安全対策を求める意見書の中でもこの点に触れ、運転再開を憂慮する旨が述べられています。敦賀半島は「地震の空白地帯」といわれており、構造上他の原発より地震に弱く、かつチェルノブイリ原発のように核暴走しやすい「もんじゅ」の運転再開には、「原発震災」への危険が差し迫っているととっても過言ではありません。

このまま運転が強行されればいかなる事態を招くか計り知れません。大事故が起これば、近畿の命の水を貯える琵琶湖への汚染も心配されます。取り返しがつかなくなる前に、住民の不安の声を国と福井県に伝えていただきたくここに要望いたします。

- ・ 京都府民の命と健康を守るために「もんじゅ」の運転再開を認めないよう国に要請してください。
- ・ 福井県知事にも要請してください。

グリーン・アクション

若狭の原発を案じる京都府民  
(連) 京都市伏見区深草開土町 71  
Tel/075-642-4667 龍池妃都美